

組合員・地域のみなさまへ



2017年度 JAいがふるさと 自己改革への取組み (自己改革状況報告書)

わたしたちJAいがふるさとは、協同して自らの農業経営や地域の農業振興、暮らしやすい地域づくりを実現していく農家と地域住民の集まりによる、協同組合です。

JAいがふるさとでは、地域の農業振興や暮らしやすい地域づくりに向けて、組合員・地域のみなさまの声を大切にしていきます。



私たちJAいがふるさと・JAグループが 改革に取り組む理由

我が国日本では、農業者の世代交代期を迎え、
農業の構造転換期を迎えています。

これまで長く地域の農業・農村を支えてこられた
農業者の方々のリタイアにより、農業生産額も減少傾向にあります。

一方で、大規模な農業経営体が増加し、
新規就農者や法人経営による雇用就農も増えつつあります。

これからも安全・安心な農畜産物を提供し続けるために
地域の農業を、“魅力ある農業”として、
夢や希望にあふれる次代につないでいくことが私たちの使命です。



JAいがふるさとが取り組む 農業分野における自己改革

JAいがふるさととは、2つのJAが実践してきた、「JAの自己改革」をさらに発展させていきます。その為、伊賀地域全体の実情を捉えなおし、運営基本構想と地域農業振興構想の策定をすすめます。構想策定までの間、合併事業計画に示された基本方針を基に、「地域に活気を呼び起こす農の振興」と「生きがい・安らぎの創造と住みよいまちづくり」をスローガンに掲げ、JAいがふるさとの自己改革に取り組みます。

基本目標

- ・産地づくり・産地強化を推進し、農業生産高を拡大する取組み
- ・直売所を核とし、「出荷者数」と「農業所得」を増大する取組み
- ・JA総合事業で支援し、農業生産コストを低減する取組み
- ・地域のJAとしての資質を確保しつつ、改正農協法にも対応した組織運営システムを整備する取組み

JAIがふるさと自己改革の取組成果 ～産地づくり・産地強化の推進～

良食味米産地の確立

良食味栽培技術を確立・普及するため、伊賀米振興協議会に食味向上部会を立ち上げました。そして、モデル圃場を設置し、技術の実証と普及に取り組んでいます。

また、良食味米のPRや米卸・大口実需者との連携を強化し、産地指定米の拡大に取り組んできました。



伊賀牛の振興

消費者の肉質ニーズに応じた飼養管理及び素牛選定マニュアルを作成・改定しながら普及に取り組んでいます。

三重ブランド認定を活用した伊賀牛のブランド強化に取り組んでいます。

販路面においても、伊賀牛ブランドの知名度アップに向け、行政と連携した各種イベントの開催・県外販売への取組み強化を図ることにより、販売促進の強化に努めました。



浅草でのPRイベント

その他の品目

麦の品質向上・収量アップの取組みについて、普及センターと合同して、生産技術研修会の開催や「タマイズミR」の栽培実証に取り組んできました。



伊賀牛共進会の様子

	2013年度	2015年度	2017年度
作況指数	104	98	93
主食用米販売高	44億6800万円	31億6800万円	33億9100万円
作況指数100の換算 主食用米販売高	42億9600万円	32億3200万円	36億4600万円
肉牛販売高	13億2700万円	13億4000万円	13億4800万円

園芸の再興・振興

直売所を含めた園芸品目の作付け振興

アスパラガス、三重なばな、美旗メロンを戦略作物に定め取り組んできました。

アスパラガスは2017年9月時点で2013年度より89a増加しました。新規者も増えていますが、大規模作付け者のリタイヤもあり、栽培面積は5.77haです。なばなは4.6haです。

園芸作物の産地化の取組みとして、イチゴやトマトの施設栽培の支援に取り組んできました。両品目の農家は15名となり、市場・直売所向けのJA販売高は約4,415万円(2017年度)に拡大しています。

美旗メロンについては2013年に取得した地域団体商標登録の利点を活かすことにより、販売力の強化を図りました。

また、地元スイーツ店と共同で特産品の美旗メロンを活用したスイーツづくりにも取組み、消費者から好評を得ました。



商品	2013年度	2015年度	2017年度
園芸作物販売高	5億6400万円	6億8200万円	5億4100万円
うち、アスパラガス販売高	1400万円	1800万円	2100万円
うち、なばな販売高	800万円	1000万円	800万円
うち、美旗メロン販売高	900万円	1400万円	1100万円

農機レンタル事業

農業者経営負担軽減のため、平成29年度よりトラクターのレンタル事業を開始しました。

25馬力トラクター2台の貸し出しを行っています。



レンタル料金表 (1日)

基本レンタル料 (税込)	オプション	
	操作説明	洗車
15,660円	5,400円	5,400円

農産物直売所

生産者の所得増大を目的とし、JAでは農産物直売所を新規開設し、運営を行ってきました。

とれたて市ひぞっこの運営方針

○おいしさを提案します

野菜ソムリエが農産物の種類や食べ方、保存の工夫などをお伝えします。

○食の安全・安心・信頼をお届けします

農薬の使用などがきちんと管理されている農産物や、低添加食品などの取り扱いをしています。

○人と人のふれあいを大切にします

生産者との交流ができる「楽しい雰囲気作り」、「また来たい」と思ってもらえる「おもてなし」の接客に取り組みます。



2017年度末の実績(緑ヶ丘とれたて市との比較)

- 出荷者数は.....2.5倍
- 年間100万円以上販売した生産者数は.....5倍



直売所間交流：JAおきなわで開催した伊賀産農産物フェア



野菜ソムリエの
食べ方提案



出荷者による
軒先市

	緑ヶ丘とれたて市	とれたて市ひぞっこ
販売実績	5300万円	3億7000万円
出荷者数	179名	443名
出荷者一人あたりの販売額	33万円	60万円
100万円以上販売額を 上げている生産者	11名	53名

※緑ヶ丘とれたて市実績は2015年12月までの1年間です。
とれたて市ひぞっこ実績は2017年度実績です。

ほのぼの市場

2009年度に「ほのぼの市場」は名張市の支援を受け開店しました。

2017年度末現在の出荷者数は93名です。

定期的にイベントを開催することにより来店客に旬の野菜の美味しい食べ方の提案等を行い、多くの方に喜んでいただいています。



うちの店・とれたて名張交流館

Aコープ青山店内の「うちの店」、行政と連携し運営している「とれたて名張交流館」においても「新鮮・安全・安心」をモットーに地元農産物や加工品等の販売を行っています。



	2013年	2017年
売上金額	1億1400万円	1億6000万円

※上記売上金額は旧伊賀南部の直売所、運営参画する施設の合計売上金額です。

6次産業化商品の開発と推進

JAIがふるさとでは過去から農産物に付加価値を付ける取り組みを進めてきました。

伊賀米の精米販売や伊賀牛カレーや伊賀米おかゆ、伊賀市と共同開発した伊賀牛ポロネーゼ、アスパラガスポターージュなどを販売しています。

また、女性加工部会「笑の花」では、地元特産品である「いちご」「ぶどう」を加工して造った「ジュレ」や、地元産よもぎを使用した「よもぎ餅」の製造・販売を行っています。



商品	2015年度	2017年度
精米取扱高	2億6400万円	2億9200万円
伊賀牛カレー販売個数	4,839箱	7,470箱
ジュレ販売個数	—	853個
出荷者の開発した加工品の販売高（ひぞっこ）	(12月～3月) 79,177点 2400万円	189,924点 6200万円

肥料農薬のコスト低減

生産コスト低減に向けた取組みとして水稻基肥・追肥について銘柄集約を行い、約15%の削減を実現しました。

今後も、肥料銘柄集約やジェネリック農薬・大型規格農薬の取扱い拡大、集約一括購入・大口予約をすすめることによりコスト削減に取り組めます。



29年産用肥料価格

肥料名	単価（予約）
伊賀コシヒカリ化成	2,200円
いがほくぶ化成2号	1,960円
NK化成C-6	1,720円



30年産用肥料価格

肥料名	単価（予約）
化成肥料(10-16-16)	1,700円
化成肥料(12-18-16)	1,520円
化成肥料(17-0-17)	1,450円

肥料予約申込大口奨励

袋数	奨励金額
100~149	25円/袋
150~199	35円/袋
200~249	45円/袋
250~299	55円/袋
300~499	75円/袋
500以上	100円/袋

化成肥料集落一括予約申込奨励

供給金額（千円）	奨励金額
1,000未満	120円/袋
1,000~1,500未満	130円/袋
1,500~2,000未満	140円/袋
2,000~2,500未満	150円/袋
2,500以上	160円/袋

化成肥料(10-16-16)100袋購入の場合

- 伊賀コシヒカリ化成（銘柄集約前） ⇒ 化成肥料(10-16-16)（銘柄集約後）
- 大口予約割引を適用(100袋)

	伊賀コシヒカリ化成	化成肥料	差額
銘柄集約によるコスト低減	220,000円	170,000円	50,000円

	大口予約割引	割引金額
大口予約奨励によるコスト低減	25円/袋	2,500円

あわせて52,500円のコスト低減

農作業の共同化と 農業経営による農地の維持

農地保全、地域農業の確立、それに対する補完機能を果たすため、2004年にJAの子会社「農業生産法人(株)いがほくふアグリ」、2017年に「農業生産法人(株)伊賀南部アグリ」を設立しました。

両子会社では農作業負担軽減のため、産業用無人ヘリによる共同防除に取り組んできました。

その他、JAが推奨するキャベツなどの野菜の栽培実証や、農作業受託業務、農地を預かったり取得したり法人が農業経営を行うことで、農地の維持に努めています。



無人ヘリによる共同防除実績

(単位：ha)

	2010 年度	2015 年度	2017 年度
水稲（イモチ、仕上げ防除）	1,285	1,710	1,756
麦	199	298	298
大豆	80	85	94
合計	1,564	2,093	2,148

2010 年度、2015 年度実績は、いがほくふ実績です。2017 年度実績はいがほくふ・伊賀南部合計実績です。

有機農業・環境保全型農業・ 耕畜連携等の推進

耕畜連携の取組みとして、大山田コンポ散布の奨励をしています。散布機マニアスプレッターの貸し出しや散布助成措置を行っています。

そして、特別栽培米を軸とした環境保全型農業の拡大に取り組んでいます。

また、農業で排出される廃プラスチックの回収を促進するため、使用済み資材の共同回収を継続しています。



機械散布面積

(単位：ha)

	2013 年度	2015 年度	2017 年度
散布面積	85.0	126.0	141.7

営農振興基金による生産振興

新規就農者の育成や、多彩な担い手の確保、地域農業の振興を目的として、2014年に営農振興基金を創設しました。農業者が新規就農や規模拡大、新しい取組みを行おうとする時、経営収支・資金繰りなどの経営負担をJAが支援する取り組みです

機械・設備等の費用助成のほか、研修やマーケティング費用などにも助成を行う制度です。



営農振興基金の助成効果

対象事業	助成経営体件数	効果
アスパラガス	7	89a面積拡大
伊賀牛	6	168頭増頭（但し増頭効果は320頭以上）
水耕栽培・苺	3	年平均620万円の販売高増加
野菜類・新技術・新規就農	24	年平均280万円の販売高増加
販売促進・経営支援など	4	伊賀米・伊賀牛の販売拡大と集落営農組織運営
合計	44	基金創設から2017年度末までの助成事業

農業未来塾

定年帰農者や女性農業者など野菜栽培に取り組む方に向けて、栽培技術向上を目指す研修として、2004年から取り組んでいます。

地域農業振興構想では、多彩な担い手づくりの推進を重要施策に位置付けています。

畑での実習（路地・ハウスでの栽培、施肥・摘心・摘果）や座学（土壌や肥料、農薬など）により栽培技術を習得します。

2017年までに延べ337名が受講しました。うち、36名がJA直売所や市場に出荷しています。36名で約2,000万円（2017年度）を販売しています。



共同利用施設の運営改善

利用者の荷受け待ち時間の短縮・作業負担の軽減を目的として、上野ライスセンター・島ヶ原ライスセンターにおいてフレコン集荷方式での受入体制の確立に取り組んでいます。

そして、施設間の運営調整を行うことで、運営と収支の改善をすすめます。



フレコン集荷方式による荷受実績

	2013年度	2016年度	2017年度
作況指数	104	101	93
フレコン実荷受量	609t	713t	634t
作況指数100の換算量	585t	705t	681t

農地の有効活用・高度利用

～マコモダケの栽培提案や

「いがぐりプロジェクト」への参加～

畑地に転換する条件が不利な水田に対し、マコモダケの栽培を提案してきました。

農・福・商・行政連携の取組みとして、空き農地に栗を植え、収穫した実を活用する「いがぐりプロジェクト」に参加しています。

2016年度から合計約2,000本の苗木を定植しました。



いがぐりプロジェクト
苗木の定植

金融事業からの農業経営支援

担い手農家や集落営農組織・法人の経営相談・提案機能を強化してきました。

新規就農者や多様な担い手に対し、新規事業実施等に伴う資金対応（相談・融資）を行ってきました。併せて、農業関連資金の利子支援（補給）も行ってきました。



農業資金融資件数

	2015年度	2016年度	2017年度
件数	118	110	118
農業資金貸出金額	4億261万円	3億7,200万円	4億8,919万円

地域活性化への取り組み ～組合員の協同活動～

健康寿命100歳プロジェクト

地域が超高齢化社会に向かう中で、JA は高齢者福祉事業に取り組んでいます。介護予防を重視し、高齢になっても元気に過ごしていただくため、「JA 健康寿命 100 歳プロジェクト」を展開しています。

ウォーキング大会や健康体操の普及、高齢者向けの料理教室などを開催しています。

助け合い組織「けやきの会」は「ふらっとほーむ あおやま」を拠点として、季節ごとの行事開催や「いこいこ便り」を発行しました。また、ふれあいサロン活動などを通じて、地域に根ざした支援活動に取り組みました。合計 629 名の方が利用されました。

地域の高齢者福祉活動の支援として、2,199 食の食事サービスに助成を行いました。

また、「四季の会」では「高齢者食を学ぼう」を開催しました。



女性のJA運営への参画 次世代層との関係深化の取り組み

女性がJA 運営に対し意見を述べる場として、JA 管内全体と支店単位で女性運営委員会を開催しています。JA 施設建設の際、女性の意見を取り入れてきました。

次世代層との関係深化の取り組みとして、フレッシュミズ活動や子育て世代を対象にした「アンパンマンこどもクラブ」を運営しています。「ベビーヨガ」教室の開催による次世代対策を継続して行っています。

将来の組合のあるべき姿について考えてもらうために、組合員次世代層を対象にした組合員講座を 2017 年 10 月より 5 回開催しました。農業の最新情報やJA自己改革の現状等について研修と意見交換を行いました。

組合員の相続事業承継問題に対応するため、10月と12月に「ハッピーマイライフセミナー」を開催しました。「終活」について学ぶ場を設け、家の光協会の「エンディングノート」を活用し、合計 2 回開催、延べ 50 名の方が受講しました。



地域貢献活動

地域貢献活動として、児童・生徒の交通事故防止に向けた街頭指導を毎月2回行っています。

また、通学路に配置して注意を促す飛び出し人形や通学時に使用するヘルメットの寄贈、交通事故の怖さや衝撃を実感してもらうための交通安全教室を開催しています。

毎月の家庭訪問や渉外活動を通じて高齢者への一声かけ運動を行っています。

伊賀市と連携し、母子手帳申請時に「母子手帳ケース」を無料配布し、ご好評いただいております。



食農教育活動

管内小学校・保育園などでのバケツ稲作授業や親子アグリ教室、野菜ソムリエ料理教室などを実践し、「食」と「農」に対する関心を高め、地域農業の理解と新たなJAファンをつくる取り組みを長年にわたり行っています。

また、「とれたて市ひっこ」で新予約商品(班員が選んだ安心安全食品)を販売し、新たな利用拡大に取り組んでいます。

名張地区においても、食農教育として「親子クッキング教室」を開催し、多くの方に参加いただきました。

今年度においても、伊賀・名張地区において「親子アグリ教室」を開催しました。また、各農産物の収穫体験等を通じて「食」への理解を深めていきます。



	2015年度	2016年度	2017年度
バケツ稲作開催(校園数)	2校3園	4校3園	6校4園
親子アグリ教室 参加者数	78名	155名	121名

「JA」ってなんだろう？

「JA」は「日本の農業協同組合(Japan Agricultural cooperatives)」という意味で、「農協」の愛称です。

農家を中心とした「組合員」が、**農家の営農と生活を守り高めることや、よりよい地域社会を築くこと**を目的に組織しています。

「株式会社」のように、多くの利潤を得ることを目的にしているのではなく、**共通の願いを実現するため**にある組織です。

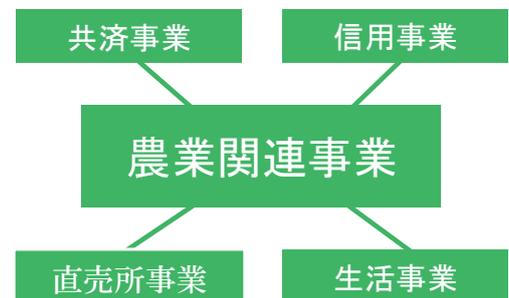
私たち「農業協同組合」は、農業を営む「**正組合員**」と農業者以外の「**准組合員**」が事業を利用しながら、組織を運営しています。

現在、国内には約650のJA、約1000万人の組合員がいます。
世界には約10億人の組合員が存在し、2016年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、協同組合は、世界共通の価値となっています。

「総合事業」のご利用で、地域の農業が支えられています

JAでは、組合員の皆さまの営農や暮らしに役立てていただけるよう、農業関連事業のほか、信用事業(JAバンク)、共済事業(JA共済)、直売所事業(JAファーマーズマーケット)、生活事業(ガソリンスタンド等)など様々な事業を行っており、これらを「**総合事業**」と呼んでいます。

地域の農業にとって大事なJAの農業関連事業だけを見ると、収支状況は厳しくはありますが、**JAは総合事業だからこそ**、農業施設への投資や、組合員の営農をお手伝いする営農指導員の配置が可能となっています。



「作って」「食べて」、地域の農業を次代につなぐ

JAでは、地域の子どもたちに、「食」と「農」が持つ多様な役割を、農作業体験を通じて伝える「**食農教育**」を展開しています。

また、直売所(JAファーマーズマーケット)では、地元の農家の朝採れの野菜や果物を販売して、「**地産地消**」を推進しています。

JAではこうした事業や活動に、共感してご利用いただける皆さまとともに、地域の農業を応援していきたいと考えています。
楽しく作って、美味しく食べていただくことが、**農業の未来**につながっています。



その一口が、未来の農業を耕します。

ひとりでは解決することが難しい課題でも、
人々が集まり、助け合えば、きっと解決できる。

地域の若者の元気な力や年配者の知恵など、
ひとりひとりの多様性を活かし、それぞれができる範囲で、
力を合わせて乗り越えていくこと。

それが私たち「協同組合」の原点です。

今、地域の農業は、農業者の世代交代や耕作放棄地の増大など
大変な転換期を迎えています。

安全・安心な地元の農畜産物を選んで、食べていただくことや、
JAの事業をご利用いただくことが、
この地域の農業の支えになっています。



耕そう、大地と地域のみらい。

彩四季のまち
～農が活きづく、地域と共に～

 JAいがふるさと